

平成23／24年度 札幌文化芸術円卓会議からのメッセージ

2013. 2. 7

はじめに

わたしたちは第1期の札幌文化芸術円卓会議(以下、円卓会議という)による真摯な議論と貴重な提案をふまえて自由な議論を重ねました。

第1期円卓会議が提起した「市民」と「アーティスト」と「行政」の三者の関係を深める具体策はどうあるべきか。検討した結果、それぞれの拠りどころとなって互いの関係を深め、かつ札幌の芸術を創造、発信する中心的な場が必要との結論に達しました。

ここにわたしたちはその考え方を示し、基幹となる事業を提案します。

1 芸術の産業化という着眼から

第1期の円卓会議は札幌の文化行政が多様化、総花化して市民の側から見えにくくなった現状に対して、担い手とその役割を明確にしました。さらに三者をつなぐキーワードとして「芸術の産業化」をおきました。

産業化とは一見わかりにくい言葉ですが、活発な芸術活動が関連する産業と周辺の消費を刺激する可能性を考えれば、芸術が札幌の地場産業のひとつとして都市の経済を活性化することを想定しているといえます。

2 芸術を札幌の戦略的産業に

芸術が札幌の産業として認知が進めば、国内外からのアーティストや観光客の流入、移住者の増加を通じて自らをさらに発展させ、札幌の将来を明るく展望することができます。なぜなら、札幌は現在においてすでに国民的な人気をもつ、魅力ある都市とされているからです。

芸術は札幌の文化と経済の発展を担う戦略の主要な一員たりえます。日々の暮らしを豊かにする水源のひとつとして、その質と量を高めていく芸術関係の仕事に札幌の将来がある、とわたしたちは考えます。

3 街の中心にその「拠りどころ」を

わたしたちは、そうしたプラスの循環を軌道に乗せるために、最良の石を打つべき場所に打つことを提案します。

皆で、札幌の中心部にアーツセンター(*)という仕組みを整備して、市民とアーティストと行政の拠りどころ、協働する場としましょう。

*本メッセージでは複数の芸術を対象とする意味からアーツセンターと表記します。

これは中央区北1条西1丁目という都心の街区に(仮称)市民交流複合施設の建設が検討されている現在、けっして非現実的な提案ではありません。ですが、どんな性格と機能を与えるかについては十分に考える必要があります。

性格面では、だれにとっても敷居の高くない、いるだけで楽しくて、いつでも新鮮な芸術に出会える場所とすることが肝心と考えます。

4 アーツセンターの4つの機能を紡ぐ

機能に関しては、「(仮称)アートセンター検討委員会」が平成23年3月にまとめた提言で次の4点があげられています。

- ①札幌らしい芸術を創り出す機能
- ②プロデューサーやマネージャーなど実務の担い手を育てる機能
- ③芸術のつくり手を元気づけ、おくり手・うけ手を世話するサポート機能
- ④より良い文化芸術政策・実務のあり方を研究する機能

この4つの機能を有機的に紡いで実現させるためには、だれがなんのためにどう働くか、必要な仕組みやハードをどうつくるか、アーツセンターの性格を掘りさげながらさらに考える必要があります。

5 多彩な人が集まる自由な創造交流拠点にしよう

アーツセンターを札幌の中心部につくるとすれば、皆に喜ばれ役に立つように働いてもらわなくてはなりません。関係者だけが集まる文化ムラにしてはなりません。

生き生きとした交流や芸術的な発展が次々と生まれるように、すぐれた経営者(プロデューサー)、人材を発掘して育て、斬新な創造を担う芸術監督、ビジネスや学びをつなぐ専門のコーディネーター、芸術の楽しみを市民や観光客に優しくお世話する人(アートソムリエ)、自発的に運営に参加する多くのボランティアなど、多彩な人材が集まる自由な創造交流拠点でありたいと考えます。また、大学や専門学校の学生がインターンシップとして働いて単位をとることができるよう、関係機関に働きかけましょう。

6 若い人を支える中間支援機能

札幌が文化芸術面で長く直面してきた大きな課題は、才能と意欲にあふれるアーティストをいかに発掘し、集め、活躍する場と切磋琢磨する機会を提供することです。とくに若いアーティストに対しては、どのような相談にも対応し、適切な助言ができるようにしなければなりません。若くて元気な人がふえることは札幌の希望を創造することにつながります。

既存の芸術関係の財団をはじめ札幌のすぐれた人材・ノウハウを生かしたワンストップサービス(よろず相談所)の実験は、明日からでも始められるでしょう。

7 楽しみなまちづくり

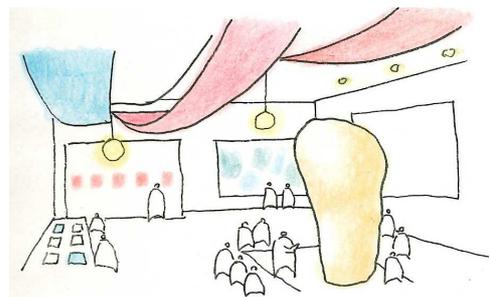
商店街や企業と連携した、若いアーティストが集まり競いあう街区づくりも楽しみです。札幌の中心部、大通・狸小路、創成川周辺などの活性化事業と連動させれば、この街のみずみずしい魅力づくりに貢献することでしょう。

8 創造と実験に必要なハードウェア(アカデミー・シアターなど)

アーツセンターには芸術の創造と実験に必要なハードウェアが欠かせません。

時間的な自由を保障された創作や分野をこえたコラボレーションの現場に地の利を生かせるこの場所は、互いに学び成長する研究創造拠点にふさわしいと考えます。完成すれば、創造都市札幌に欠かせない中心装置となることでしょう。

芸術・芸能を自由に創造し流通させる札幌の拠点として、使い勝手の良い小規模(200~300席)の演劇やバレエ・ダンスなどをアーティストが学び合いながら演じたり、融合した実験的な試みを重ねたりするアカデミー・シアター、



広場や建物の壁面をうまく使って多彩な要望に応え発信する多機能なギャラリーなどを、皆の知恵と力を集めてつくりましょう。

お金がないなら椅子1席、床タイル1枚の市民株主にもなりましょう。皆で大いにこの場を使いながら、使う人たちをしっかりと見守り、応援しましょう。

9 アートのショーケースと情報ステーション

札幌の文化芸術情報がよく見えないという声があります。この円卓会議でも強く指摘されました。ならば、これから市内で開催される文化芸術の情報を映像や実演で簡潔に伝えるショーケースを用意しましょう。

芸術関連の公的助成や企業メセナの情報、注目される内外の動きをわかりやすく提供することも必要です。市民とアーティストと行政のために、情報を集めて適切に流通させる中心的な機能を整備しましょう。

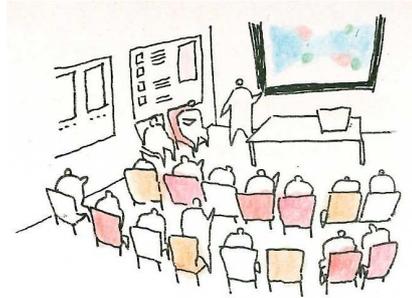
10 ベテラン陣が活躍するシンクタンク

情報の収集から編集・表現、分析、政策提言までやってのけるすぐれた人材が札幌には大勢います。とくに団塊の世代など第一線を退いたベテラン陣が活躍できる場となれば、世代を超えた交流と支援が実現します。

11 サロン、ショップ、ライブラリー

そこは同時に、札幌らしいおいしさや時間のすごし方に出会える、知的でおしゃれな場です。サロンやショップが隣り合う、文化芸術のライブラリーができるように希望します。企業もすてきな札幌市民のひとり。活躍する場にしてほしいものです。

観光文化都市札幌の中心として皆で盛りあげていきましょう。



12 アーツセンターは市民と企業の力を結集してつくる

アーツセンターは芸術を札幌の戦略的産業とするための人間集団です。それゆえ、アーツセンターの詳細を企画し、つくりあげ、運営する道筋もまた周到な戦略的実験でなければなりません。経験と意欲のあるさまざまな市民が参画することはもちろん、広範な分野から民間企業に参画してもらいましょう。

アート関連や広告代理店、建築設計、コンサルタントといった専門企業に属する人材だけでなく、一般民間企業の企画開発、営業・販売促進の担当者を複数公募することを提案します。札幌・北海道のバイタリティを組織的に動員し、参画していただくという、新しい企業メセナのかたちです。

中央を意識した横並び的な発想と組立てでは斬新な思考は生まれません。むずかしい時代をたくましく生きる民間企業の流通や販売・マーケティングの思想、発想、行動力をアーツセンターに注入しましょう。

13 アーツセンターは企業のサポーターにもなる

アーツセンターに参画・協賛する企業にはアート関係者や参画した同僚企業から新鮮な発想や助言をじかに頂戴できるという利点があります。

アカデミー・シアターやサロンでの会話から、しがらみの少ない文化的風

土に根ざした、札幌・北海道らしい、これまでなかったビジネスモデルが産まれるかもしれません。

予想しない効果が現れる可能性もあります。中小業者が費用の面から発注しにくい広告宣伝関係の業務などについてアーツセンターが助言してくれたら助かります。観光や「食」、ものづくりでの斬新なプロモーションビデオ、多国籍語のホームページの制作を希望する企業と、仕事の幅を広げたいアーティストやインターンシップで働く留学生の出会いもあるでしょう。さまざまな才能がしのぎを削るアーツセンターにアジアの時代を生き抜くビジネスセンターとしての役割が加わるなら、アーティストの仕事の幅は広がり、求められる質はますます高くなるでしょう。

14 ひろく協働し交流する場に

このようなアーツセンターに指定管理者の制度はなじまないと考えます。長期的かつ継続的に育てる必要があります。

市民とアーティストと行政が協働する場としておおらかに展開するなら、北海道の各地とも信頼の手でむすばれるでしょう。そうなれば、北海道の中心的なアーツセンターとしてアジアをはじめ世界の市民、アーティストと交流する日も遠くないでしょう。

おわりに ～人と人の関わりを大切に して生きる

わたしたちは率直に希望を語りあい、そのかたちについて議論しました。そこに一貫して流れた思いは、人と人の関わりを豊かにしてこの街で生きていきたいということでした。

しかし、議論がその先に進むには時間が足りませんでした。たとえば、この街の中心をつくるのが札幌市の10区の中心をつくることにつながってほしいと考えます。また、アーツセンターを契機に市民とアーティストと行政の関わりが深まれば、芸術に関する行財政を適切に稼働させるための札幌版アーツカウンシルをどのように設計するかといった課題が現実味を帯びてきます。

才能ある若いアーティストが食べていける街にする、という根源的な命題に関する掘り下げも宿題のひとつです。まちづくりとからめて支援のあり方をどう組み立てたらよいのか、本格的な議論はこれからです。

そのような全市的なネットワークのあり方や今後の政策的課題は次期の円卓会議や別の機会に託しますが、市民のひとりとしてこれからも人と人の関わりを支えにまちづくりに参画していこうと思います。

札幌の未来について考える機会を得られたことに厚く感謝します。

平成23/24年度 札幌文化芸術円卓会議委員一同